

おはようございます。

まったく想定していない形で、令和元年度を締めくくることになりました。

生徒諸君のいない学校ほど寂しいものではありませんでした。皆さんも、自宅で随分もやもやとした気分で、この3週間を過ごしていたのではないのでしょうか。

例年なら、既にお世話係の生徒が新入生の前に立っている時期です。自治会では文化祭に向けて様々な準備が進められているところでしょう。また、文化部・運動部とも熱心に活動しているときだと思えます。

皆さんは、春休みから新年度にかけて学校の活動はどうなるのだろう、という不安を感じていると思います。春休みの部活動については、先ほど教頭先生から説明があったとおりです。新年度以降についても、私たちは、感染予防の対策を講じながら、できるだけ神戸高校の通常の活動に戻っていきたくと願っていますが、新型コロナウイルス感染拡大とそれに対する対応は、全く予想できない状況です。

「人事を尽くして天命を待つ」という言葉があります。

誠に味わい深い言葉だと思えます。自分としてなしうる限りの力を尽くして、そのうえで、静かに起こってくる事態を待つ。それは期待どおりのことであるかもしれないし、期待に背くことであるかもしれません。どちらにしても、それは自分の力を超えたものであって、人事を尽くしたかぎりにおいては、うろたえず、あわてず、心静かにその事態を迎えよう。その中から新しい道が拓けてくるのだ、というものです。

制約はいろいろあるけれども、やりたいことがやれない状況が生じるかもしれないけれども、今与えられた環境の中で、しっかりと、人事を尽くしましょう。

全国の高校生はみんな同じ状況に置かれています。その中で、どれだけ、皆さんは人事を尽くすことができるか。

私からみて、この1年間で皆さんは随分成長したと思います。神高生には底力があります。限られた時間であっても、その時間を精一杯活用できる集中力があります。自己実現を目指す志があります。そして、そのために努力し続けられる根性があります。

新年度、一つ上の学年として、更なる飛躍のためにフルスロットルでスタートダッシュができるよう、この春休みは、しっかりと、自分を奮い立たせて、氣力を充実させましょう。

最後に、皆さんに、皆さんの仲間の活躍を紹介します。

卒業生に与えられる賞の1つ井深杯に一人追加されました。3年2組、古川慶君が、つい先日、科学地理オリンピック銅賞に輝いたことによるものです。

また、本来壮行会を開いて激励する予定であったことを2つ紹介します。

1つは、かるた部の1年生 阿部咲良（さくら）さんの、全国高校生かるたグランプリ出場です。阿部さんは、近畿高等学校総合文化祭で優れた成績をあげ、近畿地区代表の8人のうちの一人として選ばれていました。今回のウイルス流行の影響で延期になっています。

もう一つは、数学研究会の2年、平野浩太郎君、福田大智君、松川健人君、山内悠理子さんの4人がアメリカに派遣されるというものです。4人は、名古屋大学教育学部附属中学高等学校の企画するSSH事業で、数学の問題を解く大会に参加し、見事二つの予選を通過し、3つめのステージとしてアメリカのノースカロライナに派遣され、現地の高校生と数学的課題を共同解決することになっていました。しかし、残念ながら中止となってしまいました。

これらの多彩で優秀な活躍を喜び、彼らを讃えたいと思います。

では、皆さん、新年度の先行きは不透明なところもありますが、春の光溢れる4月、気力をしっかり充実させて再会しましょう。新年度、新しい1年が皆さんにとって、結果として、素晴らしい年になることを祈って、式辞とします。